



SCCJ(The Society of Cosmetic Chemists of Japan:日本化粧品技術者会)は、日本の化粧品技術の向上を目的に活動する学術団体です。学術大会や各種セミナーの開催などを通じ会員相互の啓発と交流を図り、世界的にも優れた技術発信の場で、グローバルな化粧品産業の発展に寄与しています。

🍷 学会行事への参加であなたも化粧品業界人に。💡

SCCJでは多彩なイベントを開催しており、オンラインと対面を組み合わせたハイブリッド形式の企画も充実しています。また、IFSCC Congressをはじめとする化粧品の国際大会への旅行団も企画し、参加しやすい環境を整えています。業務に役立つ知見の習得はもちろん、業界内での人脈形成や、新しいイノベーションに出会えるチャンスです。

第4回 日本化粧品技術者会 学術大会

化粧品技術者が一堂に会す国内最大の化粧品技術の祭典

神戸国際会議場において、11月24日(火)～11月26日(木)の3日間の会期にて開催されます。テーマは『Bridging Innovation～融合が想像する、化粧品の未来図～』です。会を重ねる毎に参加者数は増え、先の第3回学術大会(横浜)は1,386名の盛大な会となりました。所属組織の垣根を越えて技術者同士、活発な議論や交流をはかることが出来る絶好の機会です。多数のご参加をお待ちいたします。

第3回日本化粧品技術者会 学術大会
特別セッション



学術雑誌

「日本化粧品技術者会誌」「Applied Cosmetic Science and Technology」のご案内

年4回発行の「日本化粧品技術者会誌」と年2回発行の英文誌「Applied Cosmetic Science and Technology : ACST」の2誌を刊行しています。本会の会員であれば、両誌の閲覧・投稿ができます。化粧品科学技術に関する重要な論文が掲載されます。技術者の皆さまからの積極的なご投稿をお待ちしています。詳しくは各誌の投稿規定をご確認ください。

「日本化粧品技術者会誌」と
「ACST」



教育イベント

教育イベント拡大中

「化粧品基礎講習会」に加え、経験年数やスキルに応じた「化粧品技術実践講習会」・「化粧品技術専門講習会」を開催しています。また、学術大会期間中にワークショップや学生向けの企画を含め、3日間充実したプログラムを予定しています。詳細はWebサイトにて随時ご案内しますので、ぜひご確認のうえご参加ください。

第7回化粧品技術実践講習会
(東京会場)



SCCJのXアカウントを開設しました。最新情報をXからチェック!

SCCJ 化粧品



「SCCJって」どんなところ?

What kind of society is "SCCJ" ?



SCCJ 技術教育委員会 委員長
やはぎ しょういち
矢作 彰一 氏
(日光ケミカルズ株式会社)

SCCJは、約1900名の会員を擁する国内最大の化粧品技術者のコミュニティです。学術大会や学術誌を通じた研究発表、そして多彩な講習会などの「学びの場」を提供しており、そこから研究者同士の豊かな交流も生まれています。こうした活動のなかで、私たち技術教育委員会の使命は、技術者の皆さんの継続的な学習を支え、日本の化粧品業界の国際的な発展に貢献することです。当委員会では5つの部会が連携し、キャリアに応じた“学びのロードマップ”を提供しています。キャリア初期を支える「基礎講習会」から、中堅層向けの「実践講習会」、さらに専門性を深める「専門講習会」を企画。加えて、世界最先端の技術を知る「IFSCC 国内報告会」や、参加型で知見を広げる「ワークショップ」など、多彩な場を用意しています。最新技術の習得はもちろん、会社や世代を越えた横の繋がりが自信と成長に繋がると考えています。委員一同、皆さんのニーズに応える質の高い教育機会を追求し、共に化粧品技術の未来を創造していきたいと願っています。皆さんの積極的なご参加を心よりお待ちしております!

イベント情報は
こちらから





「Applied Cosmetic Science and Technology (ACST)」 創刊のお知らせ

◆発行:年2回(4月/10月)

【概要】2025年4月に、Applied Cosmetic Science and Technology (ACST) が創刊されました。化粧品は多様な科学技術が融合する分野です。本誌は、こうした領域の研究成果をわかりやすく整理して紹介し、化粧品技術の発展に寄与する内容をお届けします。

Chief Editorからのご挨拶

佐賀大学 大学院 理工学研究科 / 先進健康科学研究科 とくどめ よしひろ
佐賀大学 コスメティックサイエンス学環 / 海洋エネルギー研究所 教授 **徳留 嘉寛** 氏



ACSTは、化粧品科学・技術を国際的に発信し、現場で生きる知として蓄積する国際誌です。処方・評価・安全性などの工夫を、再現性と機構に基づいて世界に通じる形へ翻訳し、日本発の議論を国際舞台に載せていきます。情報を閉じれば価値は伸びません。成果は抱え込まず、世界に届く形に整えて発信する—それが日本の化粧品技術のプレゼンスを確実に押し上げます。是非、投稿をお願いします!

掲 載 者 コ メ ン ト



ポーラ化成工業株式会社 なかたに あきひろ
テクニカルディベロップメントセンター **中谷 明弘** さん

◆ A Secondary Adhesionless Foundation with a Porous Structure Prepared using a Particle-Stabilized Emulsion.
Applied Cosmetic Science and Technology 1.2 (2025): 187-195.187-195 (2025)

掲載論文の概要

世界的にもニーズの高い、ファンデーションの衣服への二次付着抑制を目指した研究です。微粒子安定化エマルジョンの乾燥膜が乳化時の構造を維持しやすい特性を活用し、膜表面に固体粒子由来の構造を表出させることで、付着しにくい化粧膜設計の可能性を示しました。珪藻土に着想を得た多孔質構造により、快適な使用感を保ちつつ消費者のストレスを軽減する新技術としての発展が期待されます。

comment



応用例の少ないW/O型のピッカリングエマルジョンを活用し、マスクにも付きにくいなど、昨今の生活者ニーズにも合った技術として、今後の製剤開発への可能性を示せたと考えております。是非、ご一読ください。

掲 載 者 コ メ ン ト



北里大学大学院薬学研究科 かも
スキンサイエンス共同研究講座 **加茂 ひかり** さん

◆ Coacervate Formation and Structural Changes during Dilution Process of Non-Sulfate Shampoos: Study Using an Anionic Surfactant Sodium Lauroyl Aspartate Model Formulation.
Applied Cosmetic Science and Technology 1.2 (2025): 187-195.

掲載論文の概要

界面活性剤と高分子電解質から形成されるコアセルベートを研究対象にしています。市販シャンプーを用いた研究において、コアセルベートが特定の液晶構造をとることが確認されました。そこで既知の成分組成からなるモデルシャンプーを作製し検討を進めたところ、希釈に伴い液晶構造がヘキサゴナルからラメラへ変化することが分かりました。現在、異なる組成でも同様の現象が見られるか検討中です。

comment



論文投稿を通じて、実験で得たデータを言葉で整理し、論理的に研究成果としてまとめて伝える力が身についたと感じています。今後は、研究で培った知見を活かした新たな発想のシャンプー開発に携わることが目標です。

36th IFSCC Congress 2026 in Perth, Australia (第36回IFSCCパース大会2026)



世界中の化粧品技術者が集まり、最先端の研究成果が発表される世界最大級の学術大会が開催されます。今大会はオーストラリアのパースでの開催! 最新技術と自然の美しさに触れながら、新たなインスピレーションを感じませんか? SCCJでは毎年IFSCCの参加旅行団を企画しています。詳細はSCCJ WEBサイトのイベントページをご確認ください。

[IFSCC 2026のWEBサイトはこちら >>>](#)



2030年 IFSCCが再び日本に! 40th IFSCC Congress 2030 in Tokyo!

日程や会場などの詳細情報は随時更新していきますので、楽しみに!

